

2014 サポーターズカンファレンス社長挨拶

(株)ベガルタ仙台 代表取締役社長 白幡洋一

昨年は、一年間にわたり皆様から多大なご声援、ご支援、ご協力をいただきました。本当に有難うございました。

サポーターズカンファレンス（サポカン）に向けて、事前に皆様から数多くのご質問やご提案をいただきました。大変有難うございます。個人的なご意見もありますので、全てにお答えできない部分もありますが、本日時間の許す限り、ご説明していきたいと考えております。最初に私から、全体的なお話をさせて戴き、そのあと各担当責任者からより個別の質問に対してご説明をさせて戴きます。宜しくお願い致します。

<チーム強化・アカデミー・レディースについて>

トップチームの昨年の13位という成績は、ファン・サポーター、そしてスポンサーの皆様大変申し訳ない結果だったと大いに反省しております。社長としても責任を感じております。当然、強化部長、監督を中心にその要因分析、そして月一度の常勤役員も含めた強化会議での再確認をベースに、今シーズンに向けた補強を致しました。経営的には弱小クラブですので、掛けられる費用には限度がありますが、その中では良い補強が出来たのではないかと考えております。

手倉森監督のオリンピック世代の代表監督招聘というサプライズもありましたが、後任にはオーストラリア人で、オーストラリアリーグ優勝、ACL出場経験もあり、代表監督も経験したグラハム・アーノルド監督を迎えることが出来ました。彼とは契約前、そして契約後も十分時間を取って話し合いを行い、先日もキャンプを訪問して話してきましたが、クラブの状況や、サポーターも含めて皆の思いを理解した上で監督を受けてもらいました。加えて昨年からの課題でもありますフィジカルの強化、一年通して怪我のしにくい体作りの強化のため、彼の右腕でもありました、クラークフィジカルコーチと一緒に招聘することが出来ました。

このスタッフ・選手の陣容で、ACL出場圏内を狙います。なお、トップチームに関しては、選手編成の発表が遅れたことに大分お叱りを受けておりますが、来年はこのようなことのないよう、年間チケット継続案内期間中には告知できるようにしていきます。

レディースに関しましても、引退などで5名の選手が抜けましたが、新たに新人も含めて5名の楽しい選手の加入がありましたので、先ずは今年から変更された大会方式のエキサイティングリーグへの進出と、最終的には昨年以上の順位を目標に据えております。

アカデミーに関しましても、いろいろご意見をいただいております。「育成強化」は私が就任してから一貫して言い続けてきております。ただこれに舵を切っても、指導者を配置しても時間が掛かります。各年代代表のキャンプなどに招聘される選手も格段に増えておりますので、この部分は、もう少し長い目で温かく見守っていただきたく思います。トップチームに昇格させるか、大学進学の途をとるか、本人、保護者も含めて十

分話し合っただけで決めています。子供たちの一生を左右することですので、慎重に考えております。最近、有力大学から声がかかることも多くなりましたので、子供たちの将来を考え、大学進学も一つの途であり、在学中に強化指定の方法も活用していこうと考えております。

<試合運営、サポーター対応について>

この部分については、事業担当から個別の説明をさせますが、サポーターの皆様にも、フロントと一緒に解決して戴きたい内容も含まれます。より良きスタジアム観戦環境にするためにも、皆様のご協力もお願いしたいと思います。

なお、毎回同じご指摘を受けて改善されていない問題があります。スタジアム内外のイベント、催し物に関してだと思えます。どうしても野球の楽天球団との比較でご指摘を承ることも多いのですが、スタジアムの全体スペースの問題や、公園施設の中にありますので、法律の公園法の縛りの中で、消防法や保健所の規制もあり、なかなか思い通りにいかない部分もあることをご理解いただきたく思います。ですが、法律だからどうしようもないではなく、行政や関係機関にも声掛けして「ユアスタ魅力創出懇談会」も組織し、関係者で他クラブの視察や、打ち合わせを重ねておりますので、少しずつでも皆様の期待に応えられるようにしていきたいと思えます。

ベガルタ仙台の判断でできるものに関しては、今まで以上に積極的に進めてまいります。新監督にもチームの選手・スタッフがファンサービスに積極的に参加することについて大いに賛同を得ておりますので期待してください。

<集客策、営業強化、フロント業務について>

いろいろフロントの仕事に関してもご指摘いただいておりますが、本日は特に集客に関して述べたいと思えます。ご指摘のように、昨年リーグ戦の集客は一試合平均 14,866 人と前年対比 10.4%の減少でした。広島も私どもと同様中盤まで二桁の減少でしたが、後半順位を上げ優勝戦線に入って挽回しております。これに関しては皆さんに大変ご心配をおかけし、そして広告協賛戴いたスポンサーの方々に大変申し訳なかったと思えます。トップとして責任を感じると同時に、一方、楽天さんは 8.8%増で過去最多の動員数ということですので、悔しい思いもあります。

これについては、いろいろな要因が挙げられております。分析も今まで以上にやっております。ただ、これはスタジアムに来られた方々のデータベースの分析であり、来られなかった方々のデータ分析は難しく予測でしかありません。成績と観客動員数との関連、恵まれなかった天候と動員数との関連、楽天に流れたライトユーザーの動員数、大震災後の生活や仕事環境の復旧と動員数との関連等々、我々なりに整理はしておりますが、これだというものは有りません。

ただ頭を抱えても仕方がないので、専門にチケットの企画、販売と管理を行う組織を事業部内に事業課として立ち上げ、少ないフロントスタッフの中から、ここに 3 名を配置しました。専門的に集客を考える部隊を中心にして、フロント全体で、事業目標の集客達成に向けて工夫してまいります。

ただ、昨年実施した初観戦者、特に若者の観戦機会への優遇策、例えば学割とか、20歳割引などは継続して実施いたしますし、皆さんから批判があります告知が遅いという課題に関しても早目早目にできるよう工夫してまいります。

<情報公開について>

この部分のご指摘は皆さんのおっしゃる通りで、私もフロントでは常に指摘をしているのですが、変わらなければ意味がありません。今年初めの部門長に対する事業計画レビューの中でも、再度指示しておきましたので、今年1年の変化を期待して戴きたいと思えます。

SNSの活用に関しても2年前ほどから社内では検討しておりました。SNSがどうのこのより、世の中の特に若者の情報収集の手段が変化している、スマホを利用してインターネットを介して情報収集する若者がすでに50%を超える現状を活用しない手はないと考えております。昨年はYouTubeでの情報公開を少し試行しましたが、その結果も踏まえ、今年はSNSを現実のものにしていきますので、ご期待ください。

<その他>

この2月からベガルタ仙台の「第六次中期経営計画」がスタートしました。今後3年間、クラブはどんな考えでどこを目指していこうとしているのかを、第五次の結果も踏まえて策定しました。HPにもアップしておりますので、是非アクセスいただきたいと思えます。

第五次中計のアクションプランでもありました、育成部門のクラブハウス新設、トップチームの天然芝練習場の工事も無事終了し、練習場に関しては10月から使用が可能になります。一か月でも早く使用に供するように芝管理者とは検討しております。紫山ですのでクラブハウスからは近いので、是非覗いてみてください。野村の二面と合わせてさらに一面増えたことにより、芝の養生にも余裕が出来、より良い環境のピッチを選手に提供できるようになります。

私からは、総括のコメントということで、皆様のご指摘の全てに答えられていませんが、この後のQ&Aで極力対応したく考えております。いずれにしましても、クラブとサポーターの皆様は、目的を同じにするパートナーであり、ファミリーだと思っております。当然立場、役割ごとに違いはありますが、「ベガルタ仙台愛」を持っているということでは共通な価値観を持つ同志です。相互に相手へのリスペクト精神を失わないで、より良いものにしていきたく考えておりますので、今後ともご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

以 上

2014 サポーターズカンファレンス監督メッセージ

サポカンのために、アーノルド監督からサポーターに向けたビデオメッセージをいただきました。本来、サポカンの冒頭で放映する予定でしたが、中止となったためにメッセージの全文（翻訳）を以下に掲載いたします。

<グラハム・アーノルド監督からサポーターへのメッセージ>

はじめまして、アーノルドです。こんにちは。（ここまで日本語）

いま延岡でキャンプの真っ最中です。選手たちはとてもハードワークしてくれており、順調なキャンプになっています。もちろん、選手たちは仙台に帰り、ユアテックスタジアムで開幕戦を迎えるのを楽しみにしています。選手もスタッフも、このシーズンを成功させたいと考えて張り切っています。

ここで、一つだけサポーターの皆さんにお願いがあります。ぜひ、スタジアムに足を運んで、我々を後押ししていただきたいのです。まだ実際にユアテックスタジアムでの応援の形は拝見できていませんが、今年のDVDでしっかりと見て、雰囲気は感じています。皆さんが作り出してくれる雰囲気はとても素晴らしく、非常に心強く思っています。

今年、ユアテックスタジアムを“要塞（仙台の砦）”という形にしてアウェイチームを迎えたいと思います。そのため、皆さんには12人目の選手になっていただきたいのです。皆さんの力で、アウェイチームに脅威を与えてほしい。そして、仙台の選手たちを心の底から後押ししてほしい。勝ち、負け、引き分け、すべての状況において一緒です。ともに歩いていきましょう。選手たちは、日本で最高のサポーターの前で最大限・100%の力を出して戦うことをお約束します。開幕戦、ユアテックスタジアムでお会いできるのを楽しみにしています。

（2014. 2. 6 収録）